



福岡医発第 2767 号 (地)

令和 2 年 1 月 30 日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会長 松 田 峻一良
(公 印 省 略)

令和 2 年度精神保健に関する技術研修の受講者募集について

今般、令和 2 年度精神保健に関する技術研修の受講者募集について、別添のとおり国立精神・神経医療研究センターより福岡県保健医療介護部健康増進課こころの健康づくり推進室を通じて案内がありました。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、貴会会員への周知方よろしくお願いいたします。

なお、各研修課程の詳細につきましては下記の同センターホームページに掲載されておりますのでご確認くださいませようお願いいたします。(令和 2 年 1 月末掲載予定)

また、福岡県域に所在する精神科病院に対しては、同推進室より直接通知されておりますことを申し添えます。

記

国立精神・神経医療研究センターホームページ
(<http://www.ncnp.go.jp/nimh/kenshu/index.html>)

小郡三井医師会より

精神保健担当理事 古川哲也
会長 島田昇二郎

公印省略

1 健第 2 7 4 4 号
令和 2 年 1 月 2 0 日

公益社団法人 福岡県医師会長 殿

福岡県保健医療介護部長

令和 2 年度精神保健に関する技術研修の受講者募集について（送付）

本県の精神保健行政の推進につきましては、日頃から御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、国立精神・神経医療研究センターから、令和 2 年度精神保健に関する技術研修の受講者募集について案内がありましたのでお知らせします。

つきましては、貴会会員の皆様への周知をよろしくお願いいたします。

なお、詳しい情報については、国立精神・神経医療研究センターホームページを御確認いただきますようお願いいたします。（令和 2 年 1 月末掲載予定）

また、福岡県域に所在する精神科病院に対しては、当室から別紙のとおり送付していますので、念のため申し添えます。

〒812-8577

福岡市博多区東公園 7 番 7 号

福岡県保健医療介護部健康増進課

こころの健康づくり推進室

自殺・アルコール問題対策班 宮下

TEL) 092-643-3265

FAX) 092-643-3271



写

公印省略

1 健第 2 7 4 4 号

令和 2 年 1 月 2 0 日

各精神科病院管理者 殿

福岡県保健医療介護部健康増進課

こころの健康づくり推進室長

(自殺・アルコール問題対策班)

令和 2 年度精神保健に関する技術研修の受講者募集について (送付)

本県の精神保健行政の推進につきましては、日頃から御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、国立精神・神経医療研究センターから、別添のとおり令和 2 年度精神保健に関する技術研修の受講者募集について案内がありましたのでお知らせします。

詳しい情報については、国立精神・神経医療研究センターホームページを御確認いただきますようお願いいたします。(令和 2 年 1 月末掲載予定)

〒812-8577

福岡市博多区東公園 7 番 7 号

福岡県保健医療介護部健康増進課

こころの健康づくり推進室

自殺・アルコール問題対策班 宮下

TEL) 092-643-3265

FAX) 092-643-3271

令和2年度 精神保健に関する技術研修課程

【募集要項】

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所

〒187-8553 東京都小平市小川東町4-1-1
電話 042 (341) 2711 (代表)

精神保健研究所ホームページ 研修情報案内
(<http://www.ncnp.go.jp/nimh/kenshu/index.html>)

< 目 次 >

1) 令和2年度精神保健に関する技術研修課程 実施計画表	1
2) 募集要項	2
3) 自治体推薦による申込受付の各研修課程要項	
第1回 発達障害者支援研修：指導者養成研修パートⅠ	5
第1回 発達障害者支援研修：指導者養成研修パートⅡ	6
第1回 発達障害者支援研修：指導者養成研修パートⅢ	7
第1回 発達障害者支援研修：行政実務研修	8
4) 自治体推薦申込用書類	
受講願書	11
履歴書	12
5) WEBによる申込受付の各研修課程要項	
第5回 災害時PFAと心理対応研修	15
第34回 薬物依存臨床医師研修・第22回 薬物依存臨床看護等研修	16
第58回 精神保健指導課程研修	17
第18回 摂食障害治療研修	18
第16回 摂食障害看護研修	19
第12回 認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修	20
第6回 災害時PFAと心理対応研修	21

令和2年度精神保健に関する技術研修課程 実施計画表

研修日程	課程名	申込み方法		申込み期間	受講料	定員	主任 副主任
		WEB	自治体 推薦				
令和2年 7月8日(水)～9日(木)	(第1回) 発達障害者支援研修:指導者養成研修パートⅠ		○	4月1日(水)～5月7日(木) (5月21日(木))	無料	50	稲垣 真澄 加賀 佳美
9月8日(火)～9日(水)	(第5回) 災害時PFAと心理対応研修	○*		6月30日(火)～7月20日(月)	¥12,000	50	金 吉晴 大沼 麻実
9月8日(火)～11日(金)	(第34回) 薬物依存臨床医師研修	○		6月26日(金)～7月17日(金)	¥24,000	20	松本 俊彦 船田 正彦 嶋根 卓也 近藤あゆみ
	(第22回) 薬物依存臨床看護等研修					30	
9月11日(金)	(第58回) 精神保健指導課程研修	○		7月2日(木)～7月22日(水)	無料	35	山之内芳雄 白杵 理人
9月15日(火)～18日(金)	(第18回) 摂食障害治療研修	○*		7月10日(金)～7月30日(木)	¥24,000	60	安藤 哲也 関口 敦
9月29日(火)～30日(水)	(第1回) 発達障害者支援研修:指導者養成研修パートⅡ		○	6月22日(月)～7月28日(火) (8月11日(火))	無料	50	住吉 太幹 熊崎 博一
11月10日(火)～11日(水)	(第1回) 発達障害者支援研修:指導者養成研修パートⅢ		○	8月3日(月)～9月9日(水) (9月23日(水))	無料	50	稲垣 真澄 加賀 佳美
11月11日(水)～13日(金)	(第16回) 摂食障害看護研修	○*		9月3日(木)～9月23日(水)	¥18,000	60	安藤 哲也 関口 敦
11月16日(月)～18日(水)	(第12回) 認知行動療法の手法を活用した 薬物依存症に対する集団療法研修	○		9月7日(月)～9月28日(月)	¥18,000	100	松本 俊彦 船田 正彦 嶋根 卓也 近藤あゆみ
12月15日(火)～16日(水)	(第6回) 災害時PFAと心理対応研修	○*		10月6日(火)～10月26日(月)	¥12,000	50	金 吉晴 大沼 麻実
令和3年 1月19日(火)～20日(水)	(第1回) 発達障害支援研修:行政実務研修		○	10月16日(金)～11月18日(水) (12月2日(水))	無料	67 組	住吉 太幹 熊崎 博一

◆最新情報は、ホームページにてご確認ください。

※
推薦状
が必要な
研修

令和2年度精神保健に関する技術研修課程

募 集 要 項

1. 開講目的

本研修は、精神保健福祉の業務に従事する医療従事者、及び研究者等を対象に、精神疾患、神経・筋疾患、発達障害に関する研究と医療にかかる専門的な知識の習得、並びに技術の向上を図ることを目的とする。

2. 主催

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

3. 募集する研修一覧

「2. 令和2年度研修一覧」参照。各課程の詳細については、精神保健研究所ホームページ「研修情報」から確認してください。

4. 受講申込

「2. 令和2年度研修一覧」にて申し込みたい研修の申込み方法を確認後、下記の（１）、（２）のうち該当する手順に従って指定の期日までに受講申込みを行ってください。

(1) 自治体推薦の必要な研修

【郵送提出書類】

・受講願書 ・履歴書

【書類作成方法】

- ① 「4. 各課程詳細（自治体推薦による申込）」にあります「受講願書」「履歴書」にご記入もしくはご入力の上、印刷し、ご捺印ください。
- ② 「履歴書」下部の所属先推薦書に、所属先推薦人によるご記入、ご捺印を受けてください。申込者本人が所属長の場合は、「自身が所属長」とご記入ください。
- ③ 所属機関を管轄している自治体（「5. 願書提出先（自治体）一覧」を参照）へお申込み期間内にご郵送ください。

※ 自治体ご担当者様※

- ④ おとりまとめの上、当センター書類必着日（申込期日とは異なります）までにご郵送ください。期日までに書類が到着しない場合は、選考の対象となりませんのでご注意ください。

(2) WEB受付の研修

【WEB登録方法】

- ① 受講申込みはWEBシステムにて行います。精神保健研究所ホームページ「研修情報」メニュー (<http://www.ncnp.go.jp/nimh/kenshu/index.html>) 内の一覧表から申し込みたい研修を選択し、「申込」をクリックしてください。
- ② 申込者情報を入力し、内容確認後、登録をしてください。
- ③ 登録したメールアドレスに受付完了メールが届きますので、必ず確認してください。WEB登録後にこちらからのメールが届かない場合は、「10. 研修に関するお問い合わせ先」までご連絡ください。

■ホームページ一覧表※印の研修（災害時PFA/摂食障害）■

- ④ WEB登録完了後、職場の上司による職印（ない場合は個人印でも可）を押した推薦書をご郵送下さい。推薦書をご郵送いただけない場合、ご参加の登録は無効になります。
なお、申込者本人が所属長の場合には、推薦書は不要です。

【注意事項】

- ・登録完了後の修正はできません。修正が必要な箇所はメールにてご連絡ください。
- ・WEBに登録された「氏名」、「生年月日」が修了証書への記載事項となります。登録に誤りがある場合は、事前にお申し出ください。

5. 受講可否について

書類選考の上、研修開始のおよそ1ヶ月前までに、受講の可否をメールで通知します。なお、電話による受講の可否のお問い合わせについてはお答えできません。

受講決定された方には受講決定通知メールにて受講票発行のURLをご案内しますので、受講生ご自身で受講票を印刷の上、研修当日にお持ちください。

6. 研修費用の支払（無料の研修を除く）

(1) 受講料

各研修により受講料が異なります。受講決定通知メールとあわせて請求書発行のURLをご案内しますので、受講生ご自身で請求書をダウンロードし、請求書に記載の納付期限（研修開始1週間前）までに指定口座にお振り込みください。現金払いはできません。振込手数料はご負担をお願いします。なお、領収書の発行は振込明細に替えさせていただきます。

※公費払い等で公印押印や請求書の宛名変更が必要な方は、WEB登録時にお知らせください。

※振込名義は、「受講者氏名」を入力してください。別の名義で振り込んだ場合は、「振込名義」と「振込日」「受講者氏名」をメールでお知らせください。

※期日までにご入金を確認できない場合は、受講許可が取り消しになります。

※研修開始日の1週間前を過ぎてからの個人的理由によるキャンセルの場合は、受講料は返金いたしかねますのでご了承ください。

(2) その他

研修期間中に実施する所外実習又は見学に要する交通費等は受講者負担とします。

7. 修了証書の授与

所定の研修課程を履修した者には修了証書を授与します。成業の見込みがないとき、理由なく欠席し、又は出席が通常でないときには、研修途中でも受講の許可を取り消すことがあります。

8. 受講時の注意事項

- ・宿泊は各人で手配してください。
- ・研修会場へは公共交通機関をご利用ください。
- ・昼食については各研修の案内をご確認ください。
- ・受付開始時刻までは会場内に入れません。
- ・やむをえず遅刻および早退、欠席する場合には、あらかじめご連絡ください。
- ・当センターは敷地内全面禁煙となっております。また、歩行者や近隣住民のご迷惑となりますので、当センター周辺道路歩道上での喫煙もご遠慮ください。

9. 研修修了後

研修によっては事後報告を求めることがあります。(アンケートなど)

10. 研修に関するお問い合わせ先

〒187-8553 東京都小平市小川東町4-1-1

国立精神・神経医療研究センター 研究所事務室

TEL 042-341-2712 (内線6309) (受付時間：平日9時～17時)

Fax 042-346-1944

E-Mail: seiken-kensyu@ncnp.go.jp

各研修課程要項

【自治体推薦による申込】

第1回 発達障害者支援研修：指導者養成研修パートⅠ

1. 目的

都道府県における発達障害支援の拠点医療機関の医師等を対象として、研修修了後に指導的な立場から、各地域におけるかかりつけ医などに対して発達障害支援に関する情報や技能を伝達する講師となることを目的とする。また、「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」事業との関連性を事後報告することが必要となる。なお、指導者養成研修パートⅠからパートⅢまで参加することにより、発達障害の医学的支援に関する考え方・知識等を一通り学ぶことが出来るようにカリキュラムが構成されている。

2. 対象者

病院、保健所、発達障害支援センター等に勤務し、発達障害に関心を有する医師、特に指導について責任的立場にある者。なお、自治体（都道府県、政令指定都市）において、行政的な立場で地域の研修実施に携わる者もしくは発達障害者支援センター職員の参加も可能とする。

医師単独の研修参加は可能であるが、行政的立場の者の単独参加は認めない。

3. 研修期間

令和2年7月8日（水）から令和2年7月9日（木）まで

4. 研修主題

発達障害の診断・治療と支援の実際

5. 課程内容（予定）

	（時間）
（1）厚生労働省の発達障害支援施策について	（1.0）
（2）かかりつけ医の果たす役割	（1.5）
（3）注意欠如多動症の診断と治療	（1.5）
（4）学習障害の診断と治療	（1.5）
（5）自閉スペクトラム症の診断と治療	（1.5）
（6）地域における発達障害児・者支援の現状と展望	（1.5）
（7）発達障害者への就労支援	（1.5）
（8）発達障害児へのストレングスを見立てて支援を目指す（WS）	（3.0）

合計 13時間

6. 定 員 50 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 自治体推薦 令和2年4月1日（水）～5月7日（木）

* 申込方法詳細は、募集要項をご確認ください。

8. 受講料 無 料

9. 会 場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第1回 発達障害者支援研修：指導者養成研修パートⅡ

1. 目的

都道府県における発達障害支援の拠点医療機関の医師等を対象として、研修修了後に指導的な立場から、各地域におけるかかりつけ医などに対して発達障害支援に関する情報や技能を伝達する講師となることを目的とする。また、「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」事業との関連性を事後報告することが必要となる。なお、指導者養成研修パートⅠからパートⅢまで参加することにより、発達障害の医学的支援に関する考え方・知識等を一通り学ぶことが出来るようにカリキュラムが構成されている

2. 対象者

病院、保健所、発達障害支援センター等に勤務し、発達障害に関心を有する医師、特に指導について責任的立場にある者。なお、自治体（都道府県、政令指定都市）において、行政的な立場で地域の研修実施に携わる者もしくは発達障害者支援センター職員の参加も可能とする。
医師単独の研修参加は可能であるが、行政的立場の者の単独参加は認めない。

3. 研修期間

令和2年9月29日（火）から令和2年9月30日（水）まで

4. 研修主題

発達障害者に対する包括的支援およびかかりつけ医研修

5. 課程内容（予定）

	（時間）
I （1）最新の障害福祉行政	（1.0）
（2）かかりつけ医の果たす役割	（1.5）
（3）発達障害診療における心得	（1.0）
（4）発達障害の早期支援	（1.0）
（5）母子支援	（1.0）
（6）ワークショップ：発達障害の感覚評価	（1.0）
（7）地域連絡会	（0.5）
II （1）発達障害の睡眠	（1.0）
（2）思春期・青年期の発達障害	（1.0）
（3）最新のトピックス	（1.0）
（4）ワークショップ：地域連携の在り方	（2.0）

合計 12時間

6. 定員 50名

7. 申込方法・期間 自治体推薦 令和2年6月22日（月）～7月28日（火）

* 申込方法詳細は、募集要項をご確認ください。

8. 受講料 無料

9. 会場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第1回 発達障害者支援研修：指導者養成研修パートⅢ

1. 目 的

都道府県における発達障害支援の拠点医療機関の医師等を対象として、研修修了後に指導的な立場から、各地域におけるかかりつけ医などに対して発達障害支援に関する情報や技能を伝達する講師となることを目的とする。また、「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」事業との関連性を事後報告することが必要となる。なお、指導者養成研修パートⅠからパートⅢまで参加することにより、発達障害の医学的支援に関する考え方・知識等を一通り学ぶことが出来るようにカリキュラムが構成されている。

2. 対 象 者

病院、保健所、発達障害支援センター等に勤務し、発達障害に関心を有する医師、特に指導について責任的立場にある者。なお、自治体（都道府県、政令指定都市）において、行政的な立場で地域の研修実施に携わる者もしくは発達障害者支援センター職員の参加も可能とする。

医師単独の研修参加は可能であるが、行政的立場の者の単独参加は認めない。

3. 研修期間

令和2年11月10日（火）から 令和2年11月11日（水）まで

4. 研修主題

発達障害児に対する医学的介入と心理社会的支援の実践

5. 課程内容（予定）

	（時間）
（1）厚生労働省の発達障害支援施策について	（1.0）
（2）発達障害児に対する支援の考え方	（1.5）
（3）地域における発達障害児・者支援の現状と展望	（1.5）
（4）顕在化しにくい発達障害：不器用児のみかた	（2.0）
（5）顕在化しにくい発達障害：チック・Tourette 症候群のみかた	（1.5）
（6）顕在化しにくい発達障害：吃音のみかた	（1.5）
（7）発達障害児に対する教育的支援	（1.5）
（8）医師が知っておきたい心理検査：講義と実習	（1.5）

合計 12時間

6. 定 員 50 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 自治体推薦 令和2年8月3日（月）～ 9月9日（水）

* 申込方法詳細は、募集要項をご確認ください。

8. 受講料 無 料

9. 会 場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第1回 発達障害者支援研修：行政実務研修

1. 目 的

厚生労働省は各地域における発達障害の早期発見・早期支援のための体制整備及び適切な事業実施を推進するために、「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」の実施要綱を定め、平成28年度から各都道府県・指定都市において関係団体等と連携の下での研修の事業実施についての通知を発出した。

本研修は、行政的な立場で各自治体の「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」の実施に携わる者もしくは発達障害者支援センター職員を対象として、各自治体において研修を企画立案することを目的とする。また、「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」事業との関連性を事後報告することが必要となる。なお、本研修受講者は、当センターの発達障害者支援研修（指導者養成研修）を受講する医師と連携することが必要となる

2. 対 象 者

行政的な立場で各自治体の「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」の企画・実施に携わる者、もしくは発達障害者支援センター職員

●申請時に提出する事前課題

受講者の勤務する自治体の早期発見・支援体制の現状、および受講者が受講後に自治体に戻って果たす役割について、申請時に提出してください。

3. 研修期間

令和3年1月19日（火）から令和3年1月20日（水）まで

4. 研修主題

自治体における発達障害者支援体制の整備およびかかりつけ医研修

5. 課 程 内 容（予定）

	(時間)
I (1) 最新の障害福祉行政	(1.0)
(2) 各支援施設の役割	(1.0)
(3) 地域支援の実践：豊田市	(1.0)
(4) 地域支援の実践：横須賀市	(1.0)
(5) 地域支援の実践：鹿児島県	(1.0)
(6) 地域支援の実践：北海道	(1.0)
(7) 地域連絡会	(0.5)
II (1) 地域支援の実践：長崎県の取り組み	(1.0)
(2) 地域支援の実践：新潟県の取り組み	(1.0)
(3) 最新のトピックス	(1.0)
(4) ペアレントトレーニング	(1.0)
(5) 地域の支援体制の整備：ワークショップ	(2.0)

合計 12.5 時間

6. 定 員 各自治体 1 または 2 名 合計 67 組
 (行政担当者、医師のペアでの参加が望ましい)
7. 申込方法・期間 自治体推薦 令和 2 年 10 月 16 日 (金) ～ 11 月 18 日 (水)
 * 申込方法詳細は、募集要項をご確認ください。
8. 受 講 料 無 料
9. 会 場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

書類様式

【自治体推薦による申込】

【自治体推薦申込み用】

受 講 願 書

年 月 日

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所長 様

勤 務 先

勤務先所在地

現 住 所

氏 名

印

貴所の令和2年度第_____回_____研修を
受講したいので、関係書類を添えて申請します。
また、受講対象者としては、下記に該当します。

- () 行政的な立場で研修の実施に携わる者
- () 医療、保健、福祉、教育等の分野で支援に携わる者
- () その他

※いずれか1つに○をお付け下さい。

【自治体推薦申込み用】

職歴	勤務先・所属部課・診療科名	職名	勤務期間					
			年 月から 年 月まで	年 カ月				
			⋮ ⋮ ⋮ ⋮	・				
			⋮ ⋮ ⋮ ⋮	・				
			⋮ ⋮ ⋮ ⋮	・				
			⋮ ⋮ ⋮ ⋮	・				
			⋮ ⋮ ⋮ ⋮	・				
精神科関係の勤務歴（通算）			年 カ月					
現在の職務内容 （簡明に記載）								
研修志望理由								
研修内容に対する要望等								
研修企画・講師歴 （直近3年間について 記載）	研修名		役割（どちらかに○）					
			研修講師・企画運営等					
			研修講師・企画運営等					
			研修講師・企画運営等					
「かかりつけ医等発達障害対応力向上研修」の企画や講師の予定について								
備考欄								

所 属 先 推 薦 書

(受講推薦理由)

上記の者を貴所の第 回 研修受講生として推薦いたします。

施 設 名 _____

所 在 地 _____

推薦者氏名 _____ 印

年 月 日

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

精神保健研究所長 様

各研修課程要項

【WEB による申込】

第5回 災害時PFAと心理対応研修

1. 目 的

本研修は、自然災害等の災害時に必要とされる心のケア（社会心理対応）についての基本的な知識を習得し、あわせてWHO等の国際機関が開発した「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に基づいた被災者対応のスキルを実地に応用できる人材を育成するために実施されます。

第一日目にはPFAの実技研修を行います。20-30名程度（予定）のグループに分かれ、ロールプレイ、コミュニケーションスキル訓練、シナリオに基づいた討論などを織り交ぜて、実際の対応能力の向上を目的とします。また、第二日目には、トラウマと悲嘆を含む心のケアの概論、子どもの反応についての講義を行うとともに、軽度の精神症状が残った人々の心理的回復を促すためのリカバリースキルについても研修を行います。

PFAは災害だけではなく、犯罪被害、事故などのトラウマ被害者に対しても実施できる、汎用性の高いスキルです。この機会を積極的に活用され、災害に備えるとともに日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対 象 者

自然災害、甚大事故、犯罪、テロ等のトラウマ的出来事に際して、実際に被災者、被害者へのこころのケア対応にあたる可能性のある、精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、臨床心理技術者、行政職員、教育関係者等。

3. 研修期間

令和2年9月8日（火）から令和2年9月9日（水）まで

※第6回災害時PFAと心理対応研修は、令和2年12月15日（火）～12月16日（水）です。

研修内容はいずれも同一です。

4. 研修主題

「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に関する基本技能を習得する。
また悲嘆、子どもの反応について理解し、不安軽減のためのスキルを習得する。

5. 課程内容

	(時間)
PFAの定義と枠組み	(2.0)
PFAの活動原則	(1.5)
PFAロールプレイ	(1.5)
セルフケアとチームのケア	(1.0)
災害と心のケア概論	(1.0)
子どもの反応	(1.5)
心理回復スキル	(2.5)
総合討論	(1.0)

合計 12時間

6. 定 員 50 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です）令和2年6月30日（火）～7月20日（月）

8. 受講料 12,000 円

9. 会 場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第 34 回 薬物依存臨床医師研修

第 22 回 薬物依存臨床看護等研修

1. 目 的

国内外の薬物乱用・依存をめぐる情勢を考慮すると、我が国の精神医療、精神保健の中での薬物依存問題はますます重要性を増していると考えられる。そのため、薬物依存に関心を持つ医師、看護師等を対象に、薬物依存の概念・現状理解、基礎知識、臨床的対応法にわたる研修を行い、薬物依存の診断、治療及び予防にかかわる医療関係者を増やすことを目的とする。

2. 対 象 者

精神科病院、精神保健福祉センター等に勤務する医師、看護師等

3. 研修期間

令和 2 年 9 月 8 日（火）から令和 2 年 9 月 11 日（金）まで

4. 研修主題

薬物依存症概念の理解と薬物依存症に対する臨床的対応の普及

5. 課程内容

	(時間)
薬物依存に関する基礎知識と現状把握	(1.5)
薬物依存の形成機序（精神依存・身体依存）	(1.5)
覚せい剤精神疾患の生物学的機序	(1.5)
覚せい剤依存・精神病の臨床	(1.5)
ベンゾジアゼピン系薬物の基礎と臨床	(1.5)
大麻の薬理作用及び行動毒性	(1.5)
女性薬物依存症者の臨床的特徴	(1.5)
青少年における薬物乱用の特徴と乱用防止のあり方	(1.5)
医療施設における薬物依存の治療	(3.0)
精神保健福祉センターにおける取り組み	(1.5)
全国の民間リハビリ施設の現状と課題	(1.5)
回復者による自助グループ活動	(1.5)
薬物依存者家族の支援について	(1.5)

合計 21 時間

6. 定 員

医師 20 名、看護師等 30 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間

WEB 令和 2 年 6 月 26 日（金）～7 月 17 日（金）

8. 受 講 料

24,000 円

9. 会 場

国立精神・神経医療研究センター 研究所 3 号館セミナールーム

第 58 回 精神保健指導課程研修

精神疾患に関する医療計画・障害福祉計画・介護保険事業計画の
実効性を持ったモニタリングと今後の包括的な策定のために

1. 目 的

来年度にひかえた第6期障害福祉計画に向けて実効性を持ったモニタリングをするための知識と技術を習得する。

精神障害にも対応した地域包括ケア構築推進事業の支援という位置づけでの研修になります。

2. 対 象 者

- ・都道府県で精神疾患の医療計画・障害福祉計画・介護保険事業計画を企画立案する担当部署職員
- ・政令市、中核市、精神保健福祉センター、保健所等で、同様の職務を行う職員

3. 研修期間

令和2年9月11日（金）

4. 研修主題

精神保健福祉資料、ReMHRAD の見方と使い方を中心に、地域における課題と施策の立て方を習得する。

地域における課題と施策のモニタリングについて、必要なことについて習得する

★受講決定者は事前課題の提出をお願いします（受講決定時に詳細をお伝えします）。

研修主題に関する Q&A の時間も設けます

5. 課程内容

	(時間)
精神保健福祉資料、ReMHRAD の見方と使い方	(3.0)
データを使った地域における課題を見出す	(2.0)
データを使った地域における施策をつくる	(2.0)
合計	7 時間

6. 定 員

35 名（応募者多数の場合は選考）

*精神障害にも対応した地域包括ケア構築推進事業に参加されている自治体の方を優先します。

7. 申込方法・期間

WEB 令和2年7月2日（木）～ 7月22日（水）

8. 受 講 料

無 料

9. 会 場

国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第 18 回 摂食障害治療研修

1. 目 的

摂食障害に関する専門的な知識及び技術の修得を目的とする。このことにより摂食障害の治療者・医療スタッフの養成を目指す。

2. 対 象 者

病院、保健所、精神保健福祉センター等に勤務し、摂食障害に関心を有する医療従事者
・精神科、心療内科、一般内科、小児科で臨床に従事している医師
・臨床心理業務等に従事する者

3. 研修期間

令和 2 年 9 月 15 日（火）から令和 2 年 9 月 18 日（金）まで

4. 研修主題

摂食障害の病態と治療に関する最新の知見

5. 課程内容

(時間)

摂食障害の疫学・病態・治療概論	(1.5)
心理教育	(1.5)
セルフヘルプ	(1.5)
家族への対応	(1.5)
認知行動療法	(3.0)
身体合併症・身体的管理	(3.0)
精神障害・パーソナリティー障害を合併する摂食障害	(1.5)
アルコール依存と摂食障害	(1.5)
小児の摂食障害	(1.5)
入院治療	(1.5)
慢性期・回復期・支援	(3.0)
症例検討	(1.5)
総合討論	(1.5)

合計 24 時間

6. 定 員 60 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です） 令和 2 年 7 月 10 日（金）～7 月 30 日（木）

8. 受 講 料 24,000 円

9. 会 場 国立精神・神経医療研究センター 研究所 3 号館セミナールーム

第 16 回 摂食障害看護研修

1. 目 的

摂食障害に関する専門的な知識及び技術を習得することにより、摂食障害のチーム医療、医療連携、患者・家族の支援に貢献できる看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士等を養成する。

2. 対 象 者

精神科、心療内科、小児科、精神保健福祉センター等に勤務する看護師および保健師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士等

3. 研修期間

令和 2 年 11 月 11 日（水）から令和 2 年 11 月 13 日（金）まで

4. 研修主題

摂食障害の病態と治療に関する最新の知見

5. 課程内容

	(時間)
摂食障害の疫学・病態・治療概論	(1.5)
コミュニケーションのスキル	(1.5)
摂食障害治療の基本	(1.5)
摂食障害の身体的合併症の管理	(1.5)
摂食障害、パーソナリティ障害を合併する摂食障害	(1.5)
精神科病棟における看護	(1.5)
心療内科・内科病棟における看護	(1.0)
小児の摂食障害と小児科病棟における看護	(2.0)
慢性期・回復期・支援	(2.0)
栄養リハビリテーション	(2.0)
ソーシャルワーカーの役割	(1.0)
総括討論	(1.0)

合計 18 時間

6. 定 員 60 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です）令和 2 年 9 月 3 日（木）～9 月 23 日（水）

8. 受 講 料 18,000 円

9. 会 場 国立精神・神経医療研究センター 研究所 3 号館セミナールーム

第 12 回 認知行動療法の手法を活用した 薬物依存症に対する集団療法研修

本研修は平成 28 年度より新設された「依存症集団療法」の施設基準に定められている研修会です。なお、診療などのやむを得ない理由で最終日ご受講できない場合でも、「依存症に対する集団療法に係る研修」の要件を満たすため修了証書を発行します。最終日ご受講できない場合は、WEB 申し込みの際に「特別連絡欄」にて予めその旨お知らせください。

1. 目 的

薬物依存症者に対する積極的な援助ができるようになるとともに、Matrix Model を参考にした包括的外来薬物依存症治療プログラムを実施するための基礎を身につけるとともに、薬物再乱用防止プログラムを実施できる援助者を増やし、国内各地にプログラムを普及させることが目的である。なお、本研修は、診療報酬における「依存症集団療法」算定における施設基準資格者養成研修でもある。

2. 対 象 者

医療機関、行政機関、司法機関、民間回復施設等で薬物依存症者の援助に従事している者。

3. 研修期間

令和 2 年 11 月 16 日（月）から令和 2 年 11 月 18 日（水）まで

4. 研修課題

薬物依存症者の臨床的特徴と治療に関するエビデンスを理解し、直面化を避けた動機付け面接の重要性を理解し、薬物依存症に対する集団認知行動療法のファシリテーションの実際を学ぶとともに、家族支援への理解を深める。なお、当研修と当センター精神保健研究所薬物依存研究部主催による「薬物依存臨床医師・看護等研修」の両方を終了した者に対しては、薬物依存研究部より「薬物依存専門課程修了認定書」を授与する。

5. 課程内容

	(時間)
薬物乱用の実態と乱用・依存・中毒概念の理解	(1.0)
薬物依存症患者への対応の基礎	(1.0)
SMARPP の理念と意義	(1.5)
SMARPP の実際	(1.5)
薬物依存症からの回復のための社会資源	(1.0)
薬物依存臨床における司法的問題	(1.0)
ビデオ学習・デモセッション	(3.0)
再乱用防止プログラムのグループワーク	(3.0)
薬物依存症と性的マイノリティおよび HIV 感染	(1.0)
動機付け面接の基礎	(2.0)
依存者家族の支援プログラム CRAFT の基礎	(1.5)
総合討議	(1.0)

合計 18.5 時間

6. 定 員 100 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB 令和 2 年 9 月 7 日（月）～9 月 28 日（月）

8. 受講料 18,000 円

9. 会 場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

第6回 災害時 PFA と心理対応研修

1. 目 的

本研修は、自然災害等の災害時に必要とされる心のケア（社会心理対応）についての基本的な知識を習得し、あわせてWHO等の国際機関が開発した「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に基づいた被災者対応のスキルを実地に応用できる人材を育成するために実施されます。

第一日目にはPFAの実技研修を行います。20-30名程度（予定）のグループに分かれ、ロールプレイ、コミュニケーションスキル訓練、シナリオに基づいた討論などを織り交ぜて、実際の対応能力の向上を目的とします。また、第二日目には、トラウマと悲嘆を含む心のケアの概論、子どもの反応についての講義を行うとともに、軽度の精神症状が残った人々の心理的回復を促すためのリカバリースキルについても研修を行います。

PFAは災害だけではなく、犯罪被害、事故などのトラウマ被害者に対しても実施できる、汎用性の高いスキルです。この機会を積極的に活用され、災害に備えるとともに日々の臨床にお役に立てて頂ければ幸いです。関係者の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

2. 対 象 者

自然災害、甚大事故、犯罪、テロ等のトラウマ的出来事に際して、実際に被災者、被害者へのこころのケア対応にあたる可能性のある、精神保健医療福祉業務に従事する医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、臨床心理技術者、行政職員、教育関係者等。

3. 研修期間

令和2年12月15日（火）から令和2年12月16日（水）まで

※第5回災害時PFAと心理対応研修は、令和2年9月8日（火）～9月9日（水）です。

研修内容はいずれも同一です。

4. 研修主題

「サイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急処置：PFA）」に関する基本技能を習得する。
また悲嘆、子どもの反応について理解し、不安軽減のためのスキルを習得する。

5. 課程内容

	(時間)
PFAの定義と枠組み	(2.0)
PFAの活動原則	(1.5)
PFAロールプレイ	(1.5)
セルフケアとチームのケア	(1.0)
災害と心のケア概論	(1.0)
子どもの反応	(1.5)
心理回復スキル	(2.5)
総合討論	(1.0)

合計 12時間

6. 定 員 50 名（応募者多数の場合は選考）

7. 申込方法・期間 WEB（所属長の推薦書が必要です）令和2年10月6日（火）～10月26日（月）

8. 受 講 料 12,000 円

9. 会 場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホールーサルホール